

YKK

Social & Environmental Report 2012

YKKグループ 社会・環境報告書 2012

人類の豊かで健康な生活と環境との
調和を目指して



目次

- 01 特集：YKKグループのモノづくり
 - ・YKKのモノづくりの原点
 - ・海外への展開 創業記念を迎えたYKKグループ会社
 - ・最新事例 「埼玉窓工場」稼働開始
 - ・モノづくりの検証の場
 - ・YKK MAP —こんなところにもYKK—
- 08 会長メッセージ
- 09 社長メッセージ
- 10 ステークホルダー・ダイアログ
 - 座談会：YKKグループのモノづくりに期待すること—
- 14 地域社会とともに
- 16 お客様とともに
- 18 従業員とともに
- 22 地球環境とともに
- 28 企業情報

表紙のテーマ

YKKグループ社会・環境報告書の表紙テーマは「子どもたちが自然の中で笑顔で遊べる未来」です。次世代を担う子どもたちが、豊かな自然環境の中で生き生きと育つことを願い、YKKグループでは、「自然界との共生」を通じた持続可能な社会の構築を目指し、さまざまな活動を推進しています。

編集方針

幅広いたくさんの方々がこの報告書を通じてYKKグループを知っていただきたいという思いから、基本的な考え方を記載した冊子版(本誌)と、数値情報などを開示するWeb版に分離し発行しています。

Web版もご覧下さい。

<http://www.YKK.co.jp/japanese/corporate/eco/report/2012/contents.html>

また、この冊子は紙のリサイクルに適した材料のみ用いて作製しています。不要となった際は、製紙原料になりますので、古紙回収・リサイクルにお出ください。

対象範囲

YKKグループ(YKK株式会社、YKK AP株式会社、海外主要生産拠点など)

対象期間

2011年度(2011年4月1日から2012年3月31日)

発行2012年6月 次回発行は2013年6月を予定しています。

配布場所：YKK黒部事業所内「YKK 50ビル」受付、YKK APショールームにて配布しています。また、インターネットでは、エコほっとライン(<http://www.ecohotline.com/>)にて発送のお手続きを承っています。

印刷：YKK六甲株式会社(YKKグループ 印刷事業特例子会社：19ページをご参照ください)



YKK創業75周年を記念し、黒部事業所(富山県黒部市)の一部を整備し、2009年よりYKKセンターパークとして一般に公開しています。(YKKセンターパークについては5ページをご参照ください)
「YKKセンターパークおよび周辺整備」が土木学会景観・デザイン委員会「土木学会デザイン賞2011」奨励賞を受賞しました。

Since 1934



YKKグループは1934年の創業以来、材料から製品の製造設備、製品に至るまでの「一貫生産体制」により、グローバルで高品質なモノづくりに取り組んできました。

YKK精神『善の巡環』——他人の利益を囚らずして自らの繁栄はない——に基づきYKKグループは世界各地の地域社会と自然界との共生範囲を広げ持続可能な社会の構築に貢献するモノづくりを目指しています。



「機械遺産」に認定された YKKのチェーンマシン

YKKの自社開発ファスナー製造機「ファスナーチェーンマシン(YKK-CM6)」が日本の技術や産業の発展に貢献した歴史的な意味を持つ「機械遺産」として認定されました。



機械遺産に認定されたCM6型機

In 1964

世界最高水準の自社開発機誕生

1950年に、アメリカ製チェーンマシンを導入し、これに改良を加えることで、生産性と品質の向上を図りました。1953年に実用化され、改良機に搭載されたファスナーのかみ合わせ部品(務歯)を間欠的に植え付ける機構は画期的な発明として、YKKの特許第1号となりました。その後、YKKは製造機械の完全自社開発に着手し、1959年に務歯の打ち抜きと間欠植え付け機構を備えたCM3型機が開発されました。

1964年にCM3型の後継機として製造されたCM6型機は、当時の大量生産方式の製造機としては世界最高水準の品質を実現しました。

YKKのモノづくりの原点

CM6型機の誕生により、安定して高品質で低価格なファスナーを生産することが可能となりました。同機は、原材料だけでなく、製造機械も自社で開発するYKKのモノづくり「一貫生産体制」の原点であり、ファスナーの用途拡大と海外展開をけん引しました。

2011年、その功績が認められ、日本機械学会より「機械遺産*」として認定されました。



CM6型機で作られたファスナー

* 機械遺産：機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、日本機械学会が2007年より毎年日本国内の機械技術面で歴史的意義のある「機械遺産」を認定するものです。

YKK精神『善の巡環』に基づく現地主義で 現地の発展とともに歩む

世界71カ国／地域で、YKK精神『善の巡環』に基づく徹底した「現地主義」による事業展開を行っています。更なる成長を目指し、現地の優秀な人材に選ばれる企業となるためにさまざまな活動を行っています。

「土地っ子になれ」を合言葉に、YKKグループは現地に根付き、現地のマーケットに応じた商品を開発・生産することで、海外での事業拡大を果たしてきました。得られた利益を現地に還元し、現地の人材を雇用、育成、登用し、事業運営を委ねることで、現地とともに事業の発展を目指しています。2011年に節目の年を迎えた3社が、長年の発展を現地の方々とともに祝う記念式典を開催しました。



Since 1986 Indonesia

設立
25
周年

YKK APインドネシア社

海外初のアルミ建材一貫生産工場YKKアルミコ・インドネシア社として1986年に設立、2004年にYKK APインドネシア社となりました。東南アジア建材事業の中核拠点として、インドネシア、シンガポール、台湾、マレーシアにアルミ建材を供給しています。

Since 1961 Malaysia

設立
50
周年

YKKマレーシア社

YKKグループが、ファスナーなどの製造・販売拠点として1961年に初めてアジアに設立した現地法人「マラヤン・ジップス社」を前身に持つYKKマレーシア社は、2011年に50周年を迎えました。



Since 1981 Argentina

設立
30
周年

YKKアルゼンチン社

ジーンズ分野向けファスナーの製造・販売拠点として設立されたYKKアルゼンチン社は、1982年のフォークランド紛争や2000年代の国家財政破綻などの厳しい情勢を、堅実な財政政策で乗り切ることによって、今日までの成長を果たすことができました。

From 2011

地球にやさしい「窓」をつくる



自然界との共生を目指すYKKグループは、新たな環境配慮型工場として「埼玉窓工場」の稼働を開始しました。

環境にやさしい工場を目指して

YKK APは、埼玉県久喜市菖蒲南部産業団地に埼玉窓工場を新設しました。日本初の窓専用工場として、2011年7月から供給を開始しています。窓による省エネは今後の日本にとってますます重要なテーマであり、埼玉窓工場は、YKK APの窓事業における中核工場として窓ブランド「APW」を生産します。

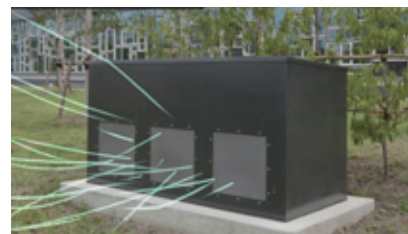
埼玉窓工場は「窓による環境配慮」を最重点テーマに、86,716m²の敷地内で自然エネルギーの利用、建物の断熱化、敷地緑化など環境負荷の低減と自然環境の有効利用に取り組みました。この結果、埼玉県内の建物の環境配慮を評価するCASBEE*1埼玉県2009年版で、建物の総合的な環境性能を表すBEEランクは5段階中上から2番目に高いAランク(★★★★)を、重点項目(ライフサイクルCO₂*2)の削減、緑の保全・創出)では最高評価(8.0スコア)を受けています。

*1 CASBEE (Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency) : 建築環境総合性能評価システム。「埼玉県建築物環境配慮制度」に基づき、建築物の省エネルギー、省資源・リサイクル、周辺環境への配慮や緑化対策などの、総合的な環境配慮の取り組みはCASBEEによって評価されます。

*2 ライフサイクルCO₂: 建築物の部材生産・建設から運用、回収、解体廃棄までの期間(ライフサイクル)の二酸化炭素排出量を建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと。

●クールチューブ*(地熱利用ダクト)

クールチューブを利用した自然換気システムにより、外気温度より2℃低い室温を実現しています。



*クールチューブは外気を取り込む際に、一年を通じて一定の温度を保っている地中を通して気温を下げることで、冷房効率を高める空調システムです。

●建物の断熱化

屋根や壁面に断熱性の高い建材を使用し、事務所棟には断熱性能の高いLow-E複層ガラス、工場棟には複層ガラスを使用しています。



屋根には自然採光の窓(トップライト)も設置



断熱性能に優れた窓「APW330」を約300セット使った事務所棟

「一貫生産体制」のモノづくりがわかる 「YKKツアーズ」

YKKセンターパークではファスナー、建材などの製品、YKKグループの歴史や技術、環境の取り組みを紹介する展示施設を整備し、一般の方々向けの工場見学「パックツアー」や「ファスナー手作り体験」を実施しています。



モノづくりのこだわりを間近に見学

平日限定で実施される「パックツアー」は約90分間の工場見学です(要予約・無料)。YKKの事業内容をわかりやすく紹介した展示ホール、吉田忠雄記念室をガイドとともに回り、現在稼働中の工場をバスに乗って見学します。その後は、一番古い工場を保存した丸屋根展示館で、YKKの技術の歩みを体系的に学ぶことができます。

丸屋根展示館ではファスナーの手作り(別途要予約・約40分・料金500円)も体験できます。

パーク内では、黒部川扇状地の森の再生を目指す「ふるさとの森づくり」の取り組みも紹介しています。



丸屋根展示館

YKKセンターパーク



所在地 富山県黒部市吉田200 YKK黒部事業所内

開園日 4月～10月/無休

11月～3月/平日のみ開園

開園中のYKKセンターパーク(50ビル展示ホール、吉田忠雄記念室、丸屋根展示館)は、見学が自由です。(都合により休園する場合があります)

開園時間 9:00～16:00(入場は15:30まで)

入場料 無料

駐車場 あり

公式ホームページ

<http://www.ykkcenterpark.jp/>
YKKセンターパークのほか、前沢ガーデンや周辺地域の黒部マップ、開園スケジュールを紹介しています。YKKツアーズのご予約はホームページまたは電話受付にて承ります。

ご予約・お問い合わせ先: 黒部ツーリズム株式会社

電話: 0765-54-8181

受付時間: 9時～16時(開園日のみ)



① 宇宙服

宇宙服には、YKKの気密ファスナー（空気を通さないファスナー）が使われています。



② 青函トンネル

内部に入り込む海水を排出する漏水用トイレには止水ファスナーが取り付けられ、トイレの清掃に役立っています。



③ カーテンウォール

ビル建築に求められる高い意匠性や遮光・断熱性などのファサード表現と機能性を兼ね備えています。



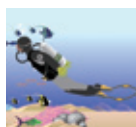
④ レストラン

イタリアンレストラン「アル・セッティモ・チエロ」では美しい夜景とおいしいお料理でお客様をお迎えします。



⑤ オイルフェンス

流出した原油の拡散を食い止めるオイルフェンスをファスナーでつなげれば、広い範囲での拡散防止が可能となります。



⑥ ダイビングスーツ

スキューバダイビング用ドライスーツにYKKの水を通さないファスナーが役立てられています。



⑦ 明石海峡大橋

排水溝に取りつけられたファスナーで、排水溝のゴミ処理を簡単に。環境を守るお手伝いをしています。



⑧ 漁網用ファスナー

定置網、養殖いけす網、引き網などにYKKのファスナーが使用され、作業の効率化に役立っています。



⑨ エマージェンシーユニット

YKK APエマージェンシーユニットは、ファスナーでテントをつないで、大きな部屋をつくることができます。



⑩ コーヒー

YKKの農場で育てられたコーヒー豆は、「カフェ ポンフィーノ」ブランドで販売されています。



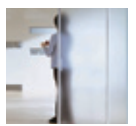
⑪ おむつ

樹脂の流入による連続射出技術を用い、肌にあたって痛くない赤ちゃん用おむつの面ファスナーを開発しました。



⑫ ソフトタンク

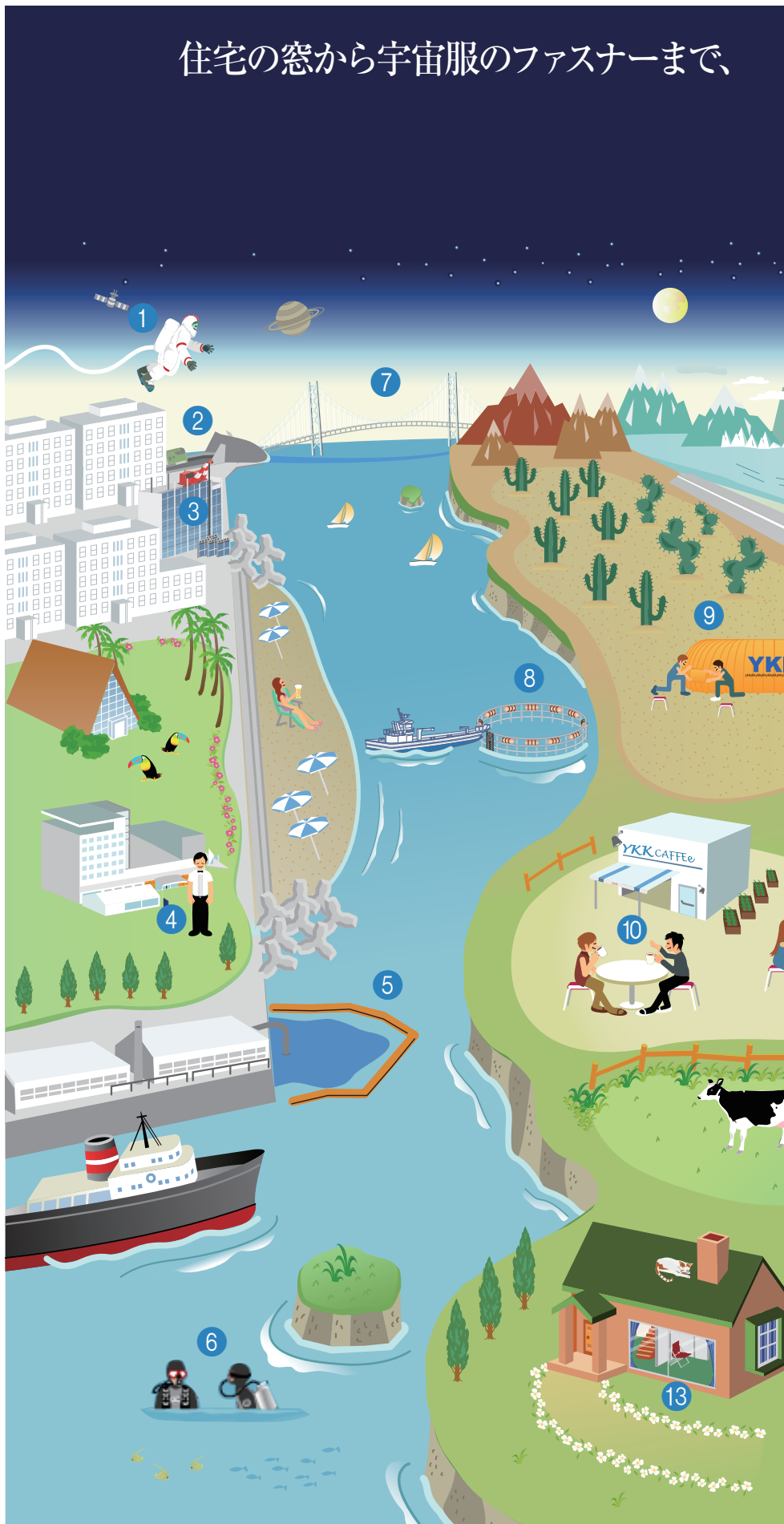
YKKのファスナー付ソフトタンクは液体（ミルクなど）がこぼれる心配がなく、使用後は小さく折りたためます。



⑬ インテリア

室内ドア、フローリング、階段、パーティションなどにYKK APの高い技術力、デザイン力が活かされています。

住宅の窓から宇宙服のファスナーまで、



さまざまな生活の中でYKKの商品が活躍しています



14 防寒服

冷たい空気や水滴を防ぐYKKの止水ファスナーは、登山やスキー用の衣料や小物に活用されています。



15 消防服

火のすぐ近くで活躍する消防士さん。その消防服にも、特殊な素材で作られたファスナーが使われています。



16 バグパイプ

空気をもらさないバグパイプのファスナーは、お手入れの便利さと、美しい音色を同時に可能にしています。



17 H-IIIB ロケット

H-IIIBロケットのサーマルカーテンの接続に、燃えにくい特殊なYKKファスナーが使われています。



18 断熱窓

高い断熱性と優れた意匠性を兼ね備えた窓は、省エネルギーに貢献し、快適な住まいづくりをお手伝いします。



19 住まいの安心

防犯性に優れた電気錠や、窓シャッターなどYKK APIは安全で安心な住まいづくりをサポートしています。



20 オーニング

日差しを調節するオーニングは、カフェのテラス席や住宅の窓辺用まで快適な空間づくりに役立ちます。



21 エクステリア

木粉とプラスチックが主原料の「リウッド」を活かしたエクステリア建材。YKK AP独自の素材で、リサイクルも可能です。



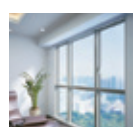
22 ギター

良質な材料で作られたYKKのワイヤーは、ギターのフレットとして世界中の有名メーカーに採用されています。



23 耐火スクリーン

耐火スクリーン用難燃ファスナーは、1000℃以上の熱に耐えるステンレス糸でテープ部分が作られています。



24 マンション(窓・ドア)

YKK APIは使いやすさと安全性、防犯性などマンションに必要な要素にこだわった設計をしています。



25 アルミニウムパーツ

バンパーやラジエーター、エアコンなどの自動車部品素材にYKK APのアルミニウム技術が活躍しています。



26 景観商品

歩道や公園などのベンチや街灯、フェンスなどにもYKK APの技術力やデザイン力が活かされています。



27 カラス対策用ゴミ収集ネット

柔軟で開閉が簡単、大きいサイズのファスナーが、街の美観を保つネットの使いやすさに一役買っています。

技術への更なる挑戦
 企業価値の向上に努め、
 社会の発展に貢献します



YKKグループは、企業精神である『善の巡環』のもと、『更なるCORPORATE VALUEを求めて』を経営理念に掲げ、「公正」であることをあらゆる経営活動の行動指針として事業活動を行っています。この精神・理念を精神的支柱として社員全員が共有し、中核事業であるファスニング事業と建材事業を、日本を含む世界71カ国/地域で展開しています。

YKKグループでは、新たな価値の創造によって事業を発展させることに注力しています。市場の要求は年々高まり、ファスニング事業では多様化するニーズへの個別対応、建材事業では窓分野・ファサード(高層建築物外装)分野などにおいて高度な技術力が求められます。この技術力はYKKグループの事業の根幹であります。自らが変革し技術力の更なる強化を推し進めることにより、新しい価値を導き出すモノづくりに挑戦してまいります。

また、私どもは、環境負荷の低減を徹底して進めています。

人も、企業も自然環境の微妙なバランスの上で生かされて、自然からの恩恵を受けることで事業活動が成り立っており、企業はおのれを取り囲むあらゆる状況(環境)に目を向けなければなりません。環境に配慮し、調和を図ることで、YKKグループの事業活動・提供する商品は、あらゆる生物、自然に対してやさしく、受け入れられるものでありたいと願っています。この環境への対応を経営の基軸に位置づけ、社会の持続的発展に貢献してまいります。

2012年6月

YKK株式会社 代表取締役会長 CEO
 YKK AP株式会社 代表取締役会長 CEO

吉田 忠裕

持続可能な社会づくりへの貢献

YKK株式会社の実践するグローバル経営は、YKK精神『善の巡環』、経営理念『更なるCORPORATE VALUEを求めて』のもと、「公正」であることをあらゆる経営活動の行動指針としています。

環境活動もこの考えのもと、世界71カ国/地域を包括する情報連絡体制、責任体制を整備するとともに、国ごとの異なる環境関連法の体系や内容への対応を確実にするために、地域ブロック単位でのコンプライアンス体制を構築いたしました。

特に、ファスニング商品においてはあらゆる年齢層のお客様への安全・安心への配慮を欠かすことはできません。米国が2011年に施行したCPSIA(消費者製品安全性改善法)基準をいち早く先取りし、鉛新基準値をクリアしたファスニング商品を開発・導入いたしました。

生産活動においても、早くから省エネ投資に積極的に取り組み、CO₂削減に貢献するとともに、廃棄物も資源と考え再利用し、ゼロエミッションに取り組んでいます。

今後も世界各国、その地域に根ざした社会貢献をさらに継続して積極的に推進します。

「Execution(実行)」と「Speed(迅速)」を意識し技術力を高め生産効率を上げるとともに、多様な生態系を崩壊させない資源の利用を推進し、環境負荷の低減に努めます。

また、「モノづくり」のメーカーであることにこだわり、技術力を結集して、これまでとは異なる考え方やアイデアで新しいページを開き、お客様・お取引先へのエコ商品の提供や提案などを通して「持続可能な社会づくり」に貢献してまいります。

2012年6月

YKK環境政策委員会委員長
YKK株式会社 代表取締役社長

猿丸雅之

より豊かな未来に向けて

YKK AP株式会社は、快適な住空間を創造する「窓やドア」、美しい都市景観を創造する「ビルのファサード」など、さまざまな建築用プロダクツを通して、これからの時代にふさわしい事業価値を創造し、暮らしと都市空間に、先進の快適性をお届けする企業を目指しています。

「新たな価値を創造する技術の会社」として、商品の品質と安全性を第一に考え、お客様に満足し信頼していただける商品、環境課題を克服できる商品をテーマにさまざまな商品開発にチャレンジしています。国内では昨年、電気使用量の制限など日本中で節電対策をするなどこれまでにない経験をしました。YKK AP株式会社は、家庭やオフィスのエネルギー削減に向けて遮熱、断熱、通風など省エネ機能を高めた商品を積極的に開発していきます。そして生活者へ、我慢するだけでなく、窓を替えることで、快適な住環境をつくり、さらに地球にも優しいことを広くお伝えし、住まいにも街づくりにも貢献してまいりたいと考えています。

一方、商品のモノづくりにおいても、エネルギー効率に優れた設備による省エネルギーの推進や商品輸送時の効率化また廃棄物ゼロを目指したゼロエミッション活動を展開し、低炭素・循環型社会の実現に寄与できるように取り組んでいきます。

以上のように商品のライフサイクルである調達、製造、使用、廃棄までの全域で絶え間なく環境問題に取り組んでいきます。

YKK AP株式会社は、日本だけでなく世界中で、新たな時代の到来を信じ、新たな価値の創造にチャレンジしていきます。これからも皆様とともにより豊かな未来に向けて参加していきますのでよろしくお願いいたします。

2012年6月

YKK AP環境政策委員会委員長
YKK AP株式会社 代表取締役社長

堀秀充

持続可能な社会の構築を目指す 「YKKグループのモノづくり」に期待すること



左から 学生：松岡 志温 氏（富山県立大学短期大学部専攻科）／消費者：稲垣 里佳 氏（富山県地球温暖化防止活動推進員）／地域住民：大上戸 久雄 氏（村椿自治振興会 副会長）／自然保護団体：山本 憲司 氏（黒部名水会 副会長）／ファシリテーター：九里 徳泰 氏（富山県立大学工学部環境工学科 教授）／自治体：中谷 松憲 氏（黒部市 市民生活部 市民環境課 課長補佐・環境係長）／取引先：平野 明 氏（平野工務店株式会社 代表取締役）

対話を通じてステークホルダーの皆様と意見を交換するステークホルダー・ダイアログをYKKグループは2010年より毎年開催しています。第3回目は2012年3月21日に黒部事業所にて開催しました。対話をうながすファシリテーターとして富山県立大学 九里 徳泰先生をお迎えし、「自然界との共生」と「YKKグループのモノづくり」をテーマに、中長期的視点も交えた意見交換を行いました。「自然界との共生」以外の2011年のご意見については、活動報告を行いました。

| 2011年のご意見 | |
|----------------|---|
| 自然界との共生 | ・地域の生態系の中でのビオトープ作り (ESD: Education for Sustainable Developmentの活用) ・黒部川扇状地全体を見据えた、地下水利用調査(行政・大学との協力) |
| 『善の巡環』とグローバル展開 | ・倫理なくしてコンプライアンス無し ・モノづくり=人づくり |
| 世界共通品質 | ・感性工学、ユニバーサルデザインの発想 ・化石燃料に頼らない、新エネへの対応 |
| 地域社会とともに | ・協働のベストプラクティス提案 ・個人の能力を社会へ提供 |

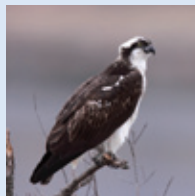
地域の生態系の中でのビオトープ作り (ESDの活用)

2011年度、YKK黒部事業所のビオトープ「ふるさとの水辺」において、3月から10月の期間、計4回に分けて鳥類、昆虫類、魚類、水底に棲む底性生物を対象に生き物調査を行いました。次回は5年後の2016年に実施します。2012年度は富山県内の小学4～6年生の親子を対象に、夏休みにビオトープ観察を実施する予定です。

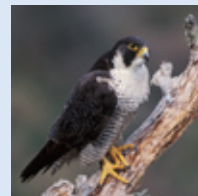


ビオトープでの生き物調査

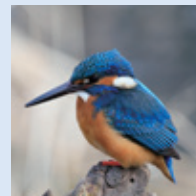
YKK黒部事業所で見られる代表的な希少生物



ミサゴ



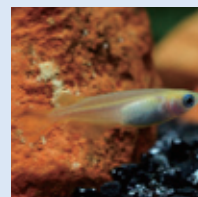
ハヤブサ



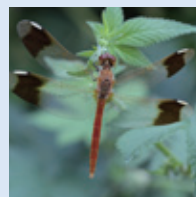
カワセミ



トミヨ



メダカ



ミヤマアカネ

「自然界との共生」2011年度活動報告に対する意見交換

●地域の生態系の中でのビオトープ作り(ESDの活用)

九里先生(以下先生) :「自然界との共生」は企業にとって重要な課題です。YKK黒部事業所では、数多くの希少生物たちを中心とした生態系が作られはじめているということですが、皆さんからのご質問やご意見はありますか。

中谷(自治体) :YKKのビオトープは開放的な場所です。外来種への対応は、どうお考えですか。

YKK :「黒部の遺伝子を残す」という活動方針でやっています。また、水中カメラを設置し、水中は定期的に観察します。

中谷(自治体) :増えすぎて悪影響をおよぼす可能性がある生物種が出ないよう、個体数調査も実施してください。

松岡(学生) :ビオトープは周辺の用水路や水辺ともつながりがあると思うので、可能な範囲で周辺の生物調査も行った方が良いのではないのでしょうか。

YKK :ビオトープの水は吉田川に流れています。吉田川には工場の排水口があり、その影響を知るために吉田川の生物調査を10年ほど前から毎年行っています。

先生 :「個体数調査」や「周辺調査」など、調査の範囲を広げるために地域のことをよく知る地元のNPOや大学教員の手を借りることも、一つの手段ですね。

●黒部川扇状地全体を見据えた、地下水利用調査(行政・大学との協力)

大上戸(地域住民) :地下水では、YKKが休みの土曜日曜には水量が多く、平日は少なくなるという声が聞かれます。曜日による水量変化を調べていただきたいと思います。

YKK :自噴水量に関しては2011年12月から、高志野中学校に自動観測装置を設置し、計測しています。当社の水の使用量と地下水位の関係も今後明らかにしていきたいと考えています。わかり次第ご報告いたします。

平野(取引先) :農業用水路がコンクリートで固められ、宅地もアスファルト化しています。そのため水が浸透せず、地下水そのものが不足している可能性もあります。合わせて調査すれば全体像を把握する助けになるかもしれません。

大上戸(地域住民) :自噴水量の計測を村椿地区でもやっていただければと思います。

YKK :ご協力していただけるご家庭の自噴水井戸があれば、すぐにでも観測をはじめたいと思います。

先生 :地域の方々のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

山本(自然保護団体) :水資源は今後ますます不足すると予測されています。そうした時代を見据えたモノづくりを研究してはいかがでしょうか。

稲垣(消費者) :ダイアログ初回より地下水の質問をしています。第2回、第3回と段階を経て調査を進めていただき大変感謝しています。やはり地下水全体の把握が重要だと思うので、YKKによる地下水利用が本当に原因なのか推測できるよう、調査箇所を広げてください。

山本(自然保護団体) :従業員が使う水量と工業用水として使う量を区別して計測すると、より有効なデータが得られるのではないのでしょうか。

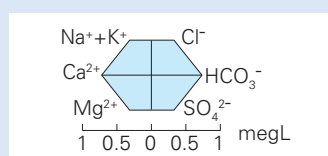
先生 :黒部川扇状地の地下水の現状を把握し、その上で事業活動を行っていることを誰にでもわかるように「見える化」できれば、企業活動の好事例として世界に紹介できます。水の使用量削減についてはこれまでも相当進んでいると思いますが、更なるチャレンジをしていただきたいと思っています。

黒部川扇状地全体を見据えた、地下水利用調査(行政・大学との協力)

黒部川扇状地を流れる地下水の永続的な利用を前提に、更なる活用を目指して富山県立大学工学部環境工学科講師 手計 太一氏に、地下水のあらゆる特性について現状把握と将来予想の調査・研究委託を依頼しています。調査結果は黒部市の水資源政策の一環として、すべて開示します。2011年度は水質、地下水位、地下水位の変化について調査を行い2012年度以降も継続していきます。

ヘキサダイアグラム

水質の違いをわかりやすくするために表現した図



水質調査

大島の地下水(赤丸)は他の地域(点線)と水質が大きく異なり、ヘキサダイアグラムのCl⁻が突出しており塩水化が進んでいる

2011年のご意見に対する活動報告と黒部事業所内の主な地震・津波対策

2011年のダイアログでの「自然界との共生」以外のご意見に対し、下記のように活動報告を行い、さらに地震・津波への要望に対して現状の対応をお知らせしました。

●『善の巡環』とグローバル展開

倫理なくしてコンプライアンス無し:経営倫理の浸透を目指し、世界各国で経営層と現地従業員との座談会を実施しました。(関連情報:18ページ)

モノづくり=人づくり:技能道場や技術研修室で技能の伝承を実施しました(関連情報:19ページ)。

●世界共通品質

感性工学、ユニバーサルデザインの発想:従来の約半分の力で開けられる「開力軽減プッシュプル錠プレートタイプ」玄関ドアをはじめ、子どもでも簡単に操作ができる「スマートコントロールキー」などを発売しました(関連情報:17ページ)。

化石燃料に頼らない、新エネへの対応:工場の冷却水を使った小水力発電を試験的に設置。外気と地下水の温度差を利用した、ヒートポンプ方式の冷暖房を計画中です(関連情報:24ページ)。

●地域社会とともに

協働のベストプラクティス提案:「クリーン大作戦」などの清掃活動、「黒部名水ロードレース」の運営ボランティア、福祉施設でのボランティア活動を展開しました。

個人の能力を社会へ提供:保育所での環境教育(関連情報:15ページ)や「くろべ水の少年団」の水生生物調査協力や各種協会などへ社員が向出しています。

●地震・津波対策

震災時の地域支援:古御堂工場グラウンドをヘリコプター発着所や救援物資の一時保管所として提供することを、富山県の津波シミュレーションに基づき、黒部市と共同で検討しています。

津波対策:離岸堤・堰堤の設置を黒部市とともに、国土交通省に陳情中です。黒部越湖製造所では、敷地内に寄り回り波対策で高さ1メートルの防水堤を設置中です。



持続可能な社会の構築を目指す

「YKKグループのモノづくり」に期待すること

① 社会の変化をとらえた新商品開発

●低炭素社会・循環型社会への対応

平野(取引先):住宅業界では大手ハウスメーカーを中心に、太陽光発電などで電気を賄うスマートハウスの企画が進んでいます。断熱窓「APW」の省エネ性能に注目していますが、大型の商品をぜひ開発していただきたいと思います。防火性に優れた窓にも期待しています。

大上戸(地域住民):窓で困るのは、網戸の耐久性です。自分でも網戸を交換しますが、市販のものは数年で破れてしまうので、材質を考慮して長く使える商品が欲しいです。

●社会構造の変化への対応

山本(自然保護団体):家族形態が大きく変わりつつあることを前提に、柔軟に間取りが変更できる住宅など、国を巻き込んだ住宅政策を検討されてはいかがでしょうか。もう一つはファスナー付きのネクタイやワイシャツなど、高齢者に使いやすい商品の開発も今後ニーズがあると思います。

YKK:いただいた意見を持ち帰り、検討いたします。

先生:時代の変化にどう対応するかということが課題ですね。

YKKグループのモノづくりをファスナー手作りで体験

2011年のステークホルダー・ダイアログでは、出席者の方々に「YKKツアー」の「ファスナー手作り体験」に参加いただきました。

「1日100本作っていた昔のモノづくりが楽しく理解できて効果的」と感想をいただきました。



治具にテープを挟み、務歯をへこみにそって同じ方向にはめ込みます



務歯をプレス機で圧着します
出来上がった手作りファスナー(右上)

●職能人の育成

平野(取引先) :大工さんで組織される全国建築組合の加入者数は1970年代の94万人に対して、2010年には37万人にまで激減しています。職人が減っている中で、「APW」などの製品も取り付けを含めた責任施工でメンテナンスまでカバーすることが必要な時代がやってくると思っています。

②モノづくりの成果の「見える化」

先生 :「APW」の省エネ効果について、どの程度ユーザーに「見える化」して伝えているのでしょうか。

YKK :カタログに「APW」を使用した場合の効果を数値として掲載し、各地の営業担当者からお客様にシミュレーション情報の提供ができるよう体制を整えています。

稲垣(消費者) :製品の有効性を、消費者にも目に見える形で展示するスペースがあるとより伝わりやすいと思います。

中谷(自治体) :YKKセンターパークが土木学会のデザイン賞を受賞したことなど、アピールするイベントなどを考えてもいいのではないのでしょうか。

YKK :カタログやショールームなどでの広告宣伝活動に加え、表彰などは広報し、よりアピールすることを考えていきたいと思っています。

③教育活動

松岡(学生) :例えば「YKKツアーズ」の内容を「YKK出張ツアーズ」としてイベント化し、学校向けにYKKの取り組みや商品・サービスを紹介してみてもどうでしょうか。

YKK :「YKKツアーズ」は通算で5万人、2011年度で16,000名の方々にご来場いただきました。スタッフも10名程度まで増やし、今後も必要に応じて増強していく予定です。

先生 :地元の工業高校や大学の工学部に向けて技術や商品を紹介するといったアプローチも、地元企業に愛着を持つ

良い機会になると思います。地元のモノづくりを強くするという意味で検討していただけたらうれしいですね。

■黒部でますます成長

中谷(自治体) :これは夢ですが、いつかオールYKKの家を見てみたいと思います。

平野(取引先) :この地域に住まう人がいて、仕事ができることに感謝しています。地域の発展に力を合わせていきたいと思っています。

先生 :この自然に恵まれた黒部だから発信できる、これからの日本の豊かさがあるはず。北陸、富山、黒部といった文化的・社会的な背景をしっかりと会社の方針の中に織り込んで、日本へ、世界へ伝えていく、そのスタートラインに立っているのではないかと考えます。また、モノづくりには「製品」と「作り方(プロセス)」という両面があります。製品にはYKKが考える豊かさを反映した環境性能、社会性能を求めたいと思います。プロセスにおいては生産・物流・リサイクルなどトータルな環境や社会への配慮が必要でしょう。持続可能な社会の構築を目指すYKKグループのモノづくりに今後も期待したいと思っています。

YKK :さまざまなご意見をありがとうございました。今後の参考といたします。



| 今回のご指摘・ご意見 | |
|------------|--------------------------|
| ①商品開発 | ・低炭素社会・循環型社会、社会構造の変化への対応 |
| ②社外情報発信 | ・モノづくりの成果の「見える化」 |
| ③教育活動 | ・各種出張授業 |

2011年にいただきましたご意見も継続していきます。



ステークホルダー・ダイアログを通して

本年は第3回が開催されました。このダイアログの場は、企業の影響を直接・間接に受ける関係者と企業が真摯に対話し、協働を通じて未来の幸せで豊かな社会を一緒に考える場です。YKKグループがこのような対話の場を本年も継続して持ったことを高く評価したいと思います。本年は昨年指摘された、地域の生態系保全、地下水利用調査といった、自然界との共生に関し現状報告があり、活発な議論が行われました。YKKグループは継続して自然界との共生へ努力し続けることが確認されました。また、持続可能な社会の構築を目指す「YKKグループのモノづくり」に期待すること、というテーマでは、社会の動きに敏感に対応した環境配慮型製品、住居システムの推進に期待しているという意見が出ました。今後は日本、海外でのYKKグループの事業所においてこのようなステークホルダーとの連携ができることを期待しています。

<ファシリテーター>富山県立大学工学部環境工学科 教授 **九里 徳泰**



静岡県裾野市、時の栖スポーツセンターで開催された、YKK特別協賛「第35回全日本少年サッカー大会」の決勝大会(2011年8月6日)。

Section

地域社会とともに

9

地域社会とともに持続的な発展を目指す

地域社会の人々とのつながりに配慮し、人的貢献も視野に入れた継続的な社会貢献活動を進めています。

東日本大震災の継続的支援

日本赤十字社より表彰

YKKグループは、東日本大震災の被災地支援として日本赤十字社を通じた義援金1億円をはじめ、緊急災害用エアテント「エマージェンシーユニット」や緊急災害用仮設ユニット「QS72」などの生活物資の提供とともに、新入社員を含むYKK AP東北事業所社員の大規模なボランティア派遣を実施しました。これら復興に向けた救援活動が認められ、日本赤十字社より2011年9月1日付で感謝状が贈呈されました。



石巻赤十字病院では、診療スペースとして「QS72」の設営をYKK AP社員が行いました。

東北復興フットサルイベントの開催

2011年5月8日、宮城県富谷町での「フットサルクリニック&フットサル大会」では、元YKK AP東北女子サッカー部「フラッパーズ」の選手やYKK AP東北事業所社員、なでしこジャパンのトレーナーの参加・協力のもと、地域の子どもたちに向けた復興イベントを開催しました。



たくさんの子どもたちが参加しました。



YKK黒部事業所：環境教育活動

黒部事業所では、YKKグループの社員が講師となって、地域の子どもたちに環境教育の出前授業を実施しています。2011年7月14日には黒部市田家保育所で、環境絵本の読み聞かせとゴミの分別体験、環境カルタ取り大会を実施しました。遊びを通じた体験で、環境を守ることの大切さを伝えていきます。



大勢の児童と保護者の皆さんが参加



楽しみながら学ぶ、環境カルタ取り大会



YKKタイ社：タイの洪水復興支援

50年に1度という大雨の影響から発生した洪水で、2011年にタイ国は大きな被害を受けましたが、現在は沈静化し、各地で復興に向けた活動が行われています。

このような中「被災者の方たちのために、何かできることはないか」との声から、YKKタイ社は2011年12月4日に洪水被害を受けた中部アユタヤ地域の寺院と学校の清掃活動を行いました。

当日は、同社から189名が参加し、近隣ボランティアのサポートを得ながら、敷地内に散乱したゴミの回収・冠水で汚れた建物の清掃などの復興支援活動を行いました。



冠水した施設を清掃

また、アセアン・南アジア・オセアニア(ASAO)を統括するYKKホールディング・アジア社よりシンガポール赤十字を通じて3万USドルの義援金を寄付しました。YKKタイ社では被災社員に対し、1戸当たり1万バーツの見舞金と、5日間の復旧有給休暇を支給しました。



12月4日の復興支援活動に参加したYKKタイ社社員



YKKスペイン社：AECEアワードを初受賞

YKKスペイン社が第4回AECEアワード「Social Responsibility (社会的貢献)」部門で表彰されました。

YKKスペイン社が所在するトルトサ市の大聖堂修復や、市役所への時計の寄付などの社会貢献が認められ、初の受賞となりました。2011年4月29日の表彰式ではカタルーニャ州知事より記念品が授与されました。

AECE (EBRE Counties Business Association) 地域の活性化を目的に、1977年に発足したスペインのカタルーニャ州タラゴナ地域の約200企業が加盟する組織



表彰を受けたYKKスペイン社



ファスナーなど「ファスニング商品」をテーマにした学生対象のファッションコンテスト「第11回YKKファスニングアワード」。

Section
10

お客様とともに

「世界共通品質」をお客様とともに実現

あらゆる経営活動の行動指針である「公正」に基づき、お客様との協働による品質向上に努めています。

YKK Bangladesh社：顧客向けフォーラム開催

YKK Bangladesh社では、第6回グローバルマーケティングフォーラムをダッカとチッタゴンで開催しました。両会場で合計600名のお客様が参加され、当日はマーケティング情報に加え、YKKグループ経営方針、品質保証、労働安全、環境方針と情報セキュリティポリシーの情報発信を行いました。



グローバルマーケティングフォーラム(ダッカ：2011年9月25日)

ベトナム・パキスタンでファスニング事業強化

ベトナムやパキスタンでは近年縫製産業の成長が著しく、輸出向け衣料品用ファスナーの市場が拡大しています。YKKでは両国でのファスナー工場の増設・増築により、生産能力の増強と商品開発やバリエーション展開を強化することで、多様化する顧客ニーズに対応します。



YKKベトナム社：第2工場増設の外観イメージ(2012年12月完成予定)



YKKパキスタン社：既存工場第2期増築後の外観イメージ(2012年12月完成予定)



YKK AP:中国不動産協会「採用したい建材ブランド表彰」窓部門第1位に2年連続で選出

中国不動産協会は、不動産事業の発展を目的に全国2,000社以上の会員を擁しています。YKK APは、中国全土において樹脂窓、アルミ形材断熱窓、アルミ窓など、各地の気象条件に合わせた高品質の窓を同協会会員向けに供給しており、10年に及ぶ中国建材事業が評価され、今回の表彰となりました。今後もお客様の要望に応える商品とサービスの提供に努めます。



YKK AP:TOTO、DAIKEN、ノーリツと石巻、いわきにコラボレーションショールーム開設

東日本大震災で被害の大きかった東北地方ではリフォームや新築が増加しています。水回りのTOTO、フローリングと内装ドアのDAIKEN、窓や玄関ドアのYKK AP、太陽光発電システム・給湯器・ガスコンロのノーリツが、4社共同で宮城県石巻市と福島県いわき市にショールームを開設しました。被災地での住環境の早期復興と活性化、雇用などによる貢献を目指します。



石巻コラボレーションショールーム(上図)

所在地：〒986-0814 宮城県石巻市南中里町3-11-1
TEL：022-771-1024(TOTO)

いわきコラボレーションショールーム

所在地：〒972-8311 福島県いわき市常磐水野谷町諏訪ヶ崎7-8
TEL：0120-43-1010(TOTO)
*東北エリア限定フリーダイヤル



YKK APショールーム

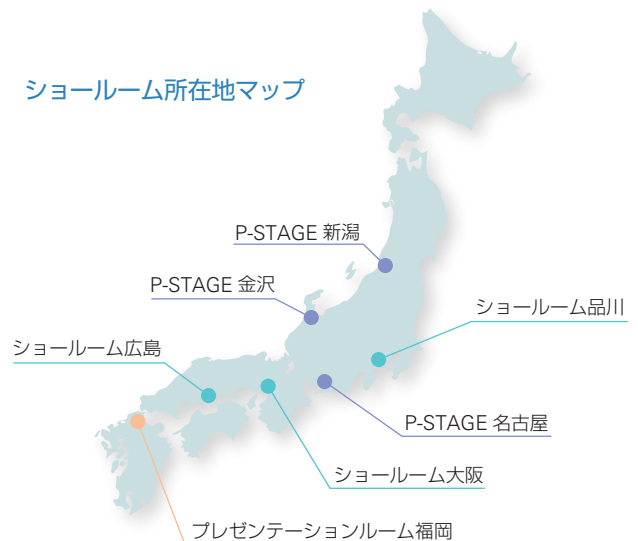
YKK APでは、商品の性能が体感できるショールームを全国に設置しています。断熱性に優れた樹脂窓「APW330」、「スマートコントロールキー」内蔵の玄

関ドアなどの最新製品の展示や、専門スタッフによる快適な住まいづくりのご相談を承っています。



YKK APショールーム大阪

ショールーム所在地マップ



【お問い合わせ】

●ショールーム

品川 TEL:03-3472-1380
大阪 TEL:06-6363-4334
広島 TEL:082-505-2020

●P-STAGE

新潟 TEL:025-283-4634
金沢 TEL:076-266-4170
名古屋 TEL:052-212-4180

●プレゼンテーションルーム

福岡 TEL:092-583-7311

ウェブサイト：<http://www.ykkap.co.jp/sr/index.asp>



現地社員が主体となり会長吉田忠裕とディスカッション。ASAO 地域ジェネラルミーティング “Let’s Talk with Tad” (2011年11月8日)。

ASAO: アセアン・南アジア・オセアニア

Section
11

従業員とともに

社員が主体を持って行動する「森林集団」の形成

社員一人ひとりが、自らの人生を自ら考え行動する「森林集団*」となるために、YKKグループは真に「公正」な人事制度の実現を目指しています。

* “一本一本の木が独立しながらも森林を形成するように、YKKグループの一人ひとりは「皆が経営者」という意識を持ち、全員が手を携えて一緒に大きく育つ森林組織である” というもの

経営理念浸透活動

YKKグループでは、会長や社長と社員の対話による経営理念の浸透活動「車座集会」を実施しています。2011年度は計11回開催されました。社員が会長や社長と近い距離でざっくばらんに発言し、両者の活発な対話を通じ経営理念を日々の業務で実践していくための課題や考えを共有しています。



会長車座集会



YKK社長車座集会

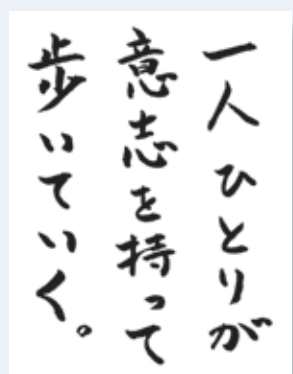


YKK AP社長車座集会

働き方“変革への挑戦”プロジェクト

YKKグループは2012年3月より、働き方“変革への挑戦”プロジェクトの取り組みをスタートしました。

国内事業会社の従業員17,000名を対象に、定年退職年齢の引き上げを開始します。現在60歳としている定年退職年齢を2013年度より段階的に引き上げ、2025年までには65歳とすることを予定しています。グループ内各社の意識改革を進め、人事制度のあらゆる面から年齢を判断基準とする制度運用を排除し、定年退職制度をできるだけ早い時期に廃止できる環境を整えていきます。





モノづくり=人づくり

●技術研修室の取り組み(ファスニング)

海外生産の急速な拡大で、グローバルな人材確保が急務となるなか、YKKでは現場での教育を基本に、体系的な知識が習得できる「技術研修室」を開講しています。ファスナー製造工程の原理原則を理解した上での専門知識の習得で、社員の知識・製造技術の向上を目指します。トラブル発生時の応用力も鍛え、未経験のケースに対応可能な人材を育成します。



染色の調合を学ぶ

●技能道場の取り組み(工機)

60歳以上の「エルダー社員」と卓越した技能を持つ「エキスパート社員」から選抜された講師による、技能の伝承を目的とした「技能道場」を開講しています。創業以来の歴史の中で蓄積されてきた貴重な技能を若い世代に伝えるため、厚生労働大臣によって表彰された卓越した技能者「現代の名工」も講師役として指導に当たっています。



技能道場



仕事と家庭の両立支援

子育てをしながら長期的なキャリア形成ができるよう、さまざまな制度で社員を支援しています。最長で子どもが2歳の誕生日まで利用できる「育児休業制度」、男性の取得促進のための「育児休業奨励金制度」、子どもが小学校に入学するまで利用できる「短時間勤務」や「時差勤務」、「看護休暇」などがあり、現在「育児休業制度」の利用者は年間277名となりました。「短時間勤務」と「時差勤務」の対象を小学校低学年の長期休暇中に拡大するなど、継続的な制度・環境づくりに取り組んでいます。



再雇用制度

定年退職者の知識や経験を活用するため「定年退職者再雇用制度」を導入しています。再雇用期間は65歳までとなっており、現在年間756名が制度を利用して働いています。

制度利用者の声



坂根 康治(62歳)
YKK黒部事業所
安全衛生グループ 所属

更なる“安全衛生水準の維持・向上”に向けて

吉田工業(現YKK)に入社以来、海外工場での勤務を含め長い間「ファスニング製品の製造」「ファスニング安全衛生管理」に関わってきました。2010年から黒部事業所同グループで今までの経験を活かし安全衛生教育の指導者として人材の育成に従事しています。



後輩の指導育成は先輩社員の務めですが、この制度のおかげでその機会に恵まれ、自らの経験から得られた知識を形として伝授すべく奮闘しています。



障がい者雇用

YKKグループの障がい者雇用率は2011年度1.94%となりました。印刷事業の特例子会社であるYKK六甲株式会社では、バリアフリー施設を導入し、重い障がいのある方の就労支援を進めるとともに、敷地内のピオトープ設置や周辺地域の清掃など、地域社会への貢献活動にも取り組んでいます。



職場の様子

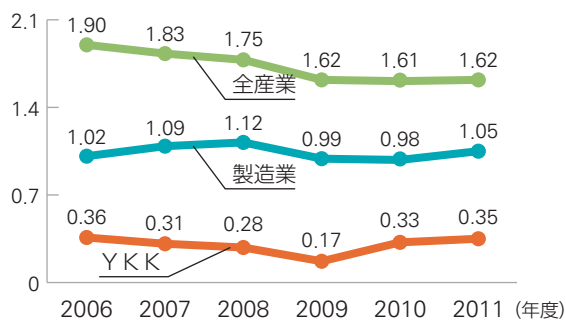
周辺地域の清掃など地域貢献活動にも取り組んでいます



労働安全・保安防災：安全な職場と健康づくり

YKKグループでは、安心して働ける職場環境の維持を目的としたさまざまな研修と健康増進プログラムを実施しています。

■ YKKグループ労働災害統計（休業度数率）

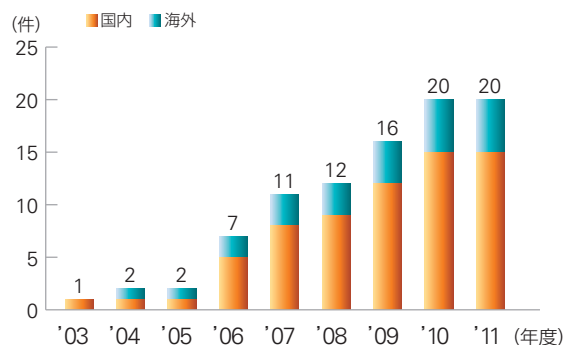


休業度数率：労働災害発生の頻度を表す指標

$$\frac{\text{労働災害による休業被災者数}}{\text{延べ実労働時間数}} \times 1,000,000$$

※全産業（総合工業を除く）、製造業の度数率は労働災害統計（厚生労働省）より引用

■ YKKグループ OSHMS 認定件数（累積）



● OSHMSに係る動向

- 1972：ローベンス報告（英国）
- 1982：自主的保護プログラム（米国）
- 1991：成功する安全衛生管理の指針（英国）
- 1999：労働省（当時）OSHMS 指針公表（2006：改正）
- 1999：中災防 OSHMS 関連研修開始
- 2003：中災防 JISHA 方式適格 OSHMS 認定開始

OSHMS: Occupational Safety and Health Management System
 中災防: 中央労働災害防止協会

東日本大震災を踏まえた今後の対応

事業継続計画の改善

YKKグループでは2007年度に事業継続計画(BCP*)の基本方針を策定し、「人命の保護」「資産保護と事業・業務の継続」「地域貢献」を3本柱に、社内整備を進めています。東日本大震災後、日本国内でグループ所有建物の耐震性調査を行いました。2011年11月時点で旧基準の耐震建物は287棟で、うち対策が必要な建物は120棟となりました。地震の発生可能性と、収容人数が多いなど地震発生時の影響の重大性を勘案した3段階のリスク評価を行い、優先度の高い建物から順に2012年度から事業計画に盛り込み、対策をスタートさせています。



YKK AP四国事業所耐震化工事

防災訓練

2011年11月にYKK AP黒部製造所にて、震災時の経験と反省を踏まえ、地震初動対応と被害を最小に抑えられるよう、震度6を想定した総合防災訓練が200名の参加者のもと行われました。



はしご車による救出訓練、放水訓練



救命講習（地域の方も参加）

*BCP: Business Continuity Plan



YKKパキスタン社の防火への取り組み

YKKパキスタン社は、2011年、パキスタン国内で開催された第1回火災安全アワードを受賞しました。YKKパキスタン社では社内に事故等の緊急時に対応するEmergency Response Team (ERT) を組織し、防火訓練や、化学物質漏えいに対する研修などを継続的に行っています。これらの取り組みが評価され、今回の受賞となりました。



表彰式



YKKバングラデシュ社：特殊健康診断の実施

YKKバングラデシュ社では、一般社員の定期健康診断に加え、化学物質や危険物などの取扱者と社員食堂の調理従事者の健康状態の把握を目的として、特殊健康診断を実施しています。2011年度は調理者17名を含む合計59名に胸部エックス線や血液検査など8項目について検査を実施しました。検査の結果、全員がすべての項目において基準値内であることを確認しました。



化学物質や危険物などの取扱者



社員食堂スタッフ



健康増進活動への取り組み

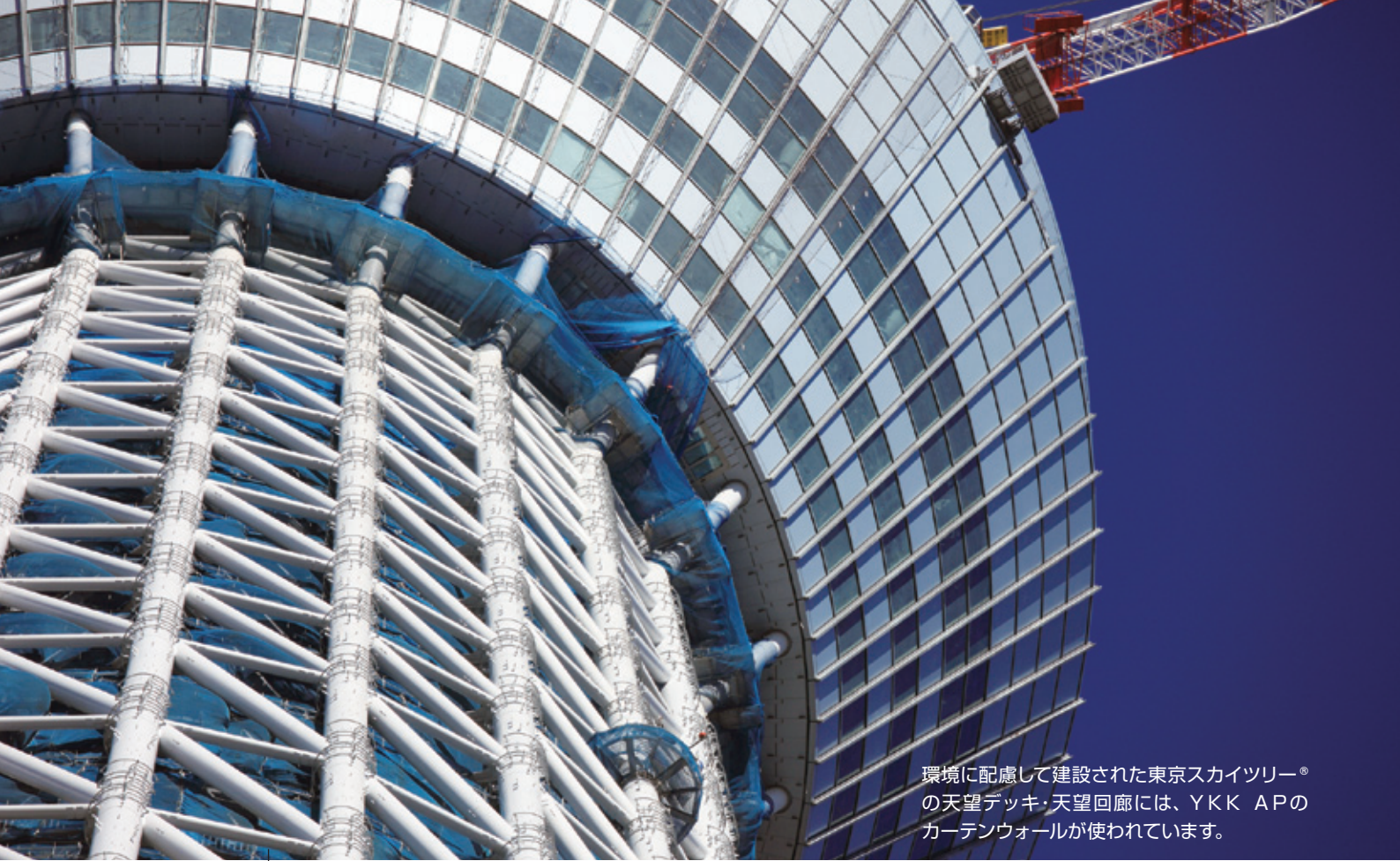
マラソン大会への参加や社内球技大会の開催など、YKKグループ各社では、健康増進のため、従業員のスポーツ参加を奨励しています。



同好会でスポーツイベントを定期的開催(YKK韓国社)



チェルケスキョイ工場とイスタンブール営業所のサッカー交流試合で親睦と健康増進を図っています(YKKトルコ社)



環境に配慮して建設された東京スカイツリー®の天望デッキ・天望回廊には、YKK APのカーテンウォールが使われています。

Section
12

地球環境とともに

低炭素・資源循環・自然共生型社会を実現

YKKグループではYKKグループ「環境宣言」に基づき、すべての事業分野で環境経営を推進しています。

YKKグループ 環境宣言

恵み豊かな地球環境を守り、健全な姿で次世代に伝えることは今や人類共通の最重要課題と認識されています。YKKグループは、『地球にやさしい企業』を目指し、「環境との調和」を事業活動の最優先課題として取り組み、推進することをここに宣言します。

1994年9月20日

YKKグループ代表 吉田忠裕

環境経営4つの約束

約束1

エコプロダクツ・サービスの開発と提供

YKKグループは、商品を通して持続可能な社会づくりに貢献します。

約束2

環境負荷低減経営の更なる徹底

YKKグループは、事業活動における環境負荷の低減を徹底して進めます。

約束3

グローバル環境経営システムの運用と活用

YKKグループは、世界のあらゆる地域で「環境との調和」を最優先とした環境マネジメント活動を続けます。

約束4

環境コミュニケーションの推進

YKKグループは、環境政策を進める上でお客様との「対話」が最も重要であると考え行動します。

YKKグループの環境に関する基本理念と行動方針の「YKKグループ環境憲章」の全文は下記ウェブサイトをご覧ください。
<http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/eco/charter.html>



エコプロダクツ

「窓で節電。」

夏の戸建て住宅において、室内へ流入する熱の71%は「開口部(窓)」からと試算されており(*1)、住宅の中で最も熱が入る場所です。そのため、この窓まわりで外部からの熱の流入を遮ることが、家庭でのエアコンの消費電力量を抑えるために非常に重要です。

また、せっかくのエアコンの冷気を外に逃がさないで室内温度を保つことや、過ごしやすい時間帯には住まいの中に風を上手に取り込みエアコンに頼らないことも重要です。

*1: 社団法人日本建材・住宅設備産業協会、省エネルギー建材普及促進センター

●「スナップシェード」

スナップボタンで簡単に取り付けができる日よけ商品です。夏の日射熱を60%以上カット。室内温度の上昇をおさえ、エアコンの電力使用低減に貢献します。



貼り付けるだけで簡単に設置できるYKK製スナップボタン「SNAD™」を使用。外壁に加工ができないマンションや集合住宅にも設置できます。

●夕涼み空間「網戸テラス」

テラス屋根の開口部3方向に、屋外用大型上げ下げロール網戸をセット。室内のエアコンを消して屋外で夕涼みを楽しむことができる空間提案商品です。エアコンをオフにすれば、消費電力の削減が期待できます。



網戸のガイドレールは、YKK製ファスナー仕様のため隙間なくスムーズに操作でき、任意の位置で固定ができるので半開放も可能です。



インドネシア：環境表彰

インドネシア環境省では、企業の環境パフォーマンスの格付け制度「PROPER」を1995年から実施しています。「PROPER」は企業から提供された環境情報に基づき、金、緑、青、赤、黒に企業を格付けし、公表する制度です。

YKKインドネシア社、YKK APインドネシア社の両社が同時に、2011年に「PROPER」においてGreen賞を受賞しました。これは、工業団地においてコンプライアンスを遵守し、環境システムの維持およびCO₂排出量削減(Reduce)、資源再利用(Reuse)、資源再生(Recycle)、環境回復(Recovery)の4Rに努め、効率的な資源活用と社会活動を促進する取り組みが評価されたものです。



Green賞賞状とトロフィー

地球温暖化防止：新エネルギー対応への取り組み

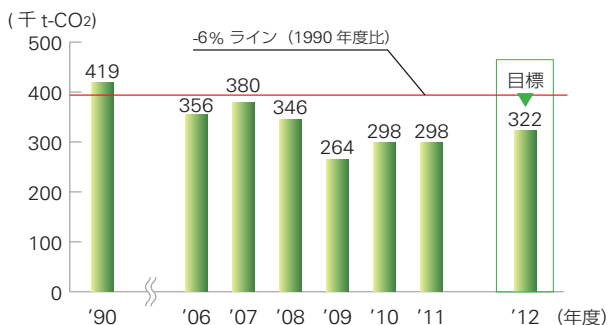
小水力発電や地下水熱の利用などの自然エネルギーの活用で、化石燃料に頼らないエネルギーによるCO₂排出削減を進めています。



CO₂排出量削減

国内YKKグループのCO₂排出量を2012年度までに1990年度比で23%削減する目標に対して、2011年度は29%削減と目標をクリアしました。これは、継続的な省エネ設備への投資による効果もありますが、夏の電力需要抑制対策として、積極的な節電施策を行ったことも大きな要因です。また2011年の国内のCO₂排出量算定の第三者検証を受けたことをベースに、海外拠点へも拡大を図りグループ全体の実態を把握するとともに、高効率機器等の設備投資を行なうことでグローバルでの更なる削減に努めます。

CO₂ 排出量実績 (YKKグループ国内全拠点)



※過去の把握できない排出量は、2010年度のデータを使用しました。
 ※2011年度のCO₂換算係数は直近の値を使用しました。
 YKKグループの温室効果ガス(GHG)算定ルールは、
<http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/eco/report/2012/ecology/ecology03.html> を参照ください。



YKKタイ社：工場屋根の断熱化

YKKタイ社では、工場屋根の断熱化を図っています。断熱効果による空調システムの省エネルギーにつながっています。断熱塗装した屋根



小水力発電・地下水熱利用の取り組み

黒部事業所では、敷地内に機械冷却用貯水池を設けています。冷却水は敷地内を循環しており、冷却水が再び貯水池に戻る水流を活かして、2011年度にスクリー式の小型発電機を試験的に設置しました。1時間当たり80m³の水流で、192Wの定格発電を行っています。ここで発生した電力を北陸電力の系列に接続し、生産用として利用しています。

また黒部川扇状地の地下水温度が年間を通じて一定であることから、温度差を利用したヒートポンプによる冷暖房システムを2012年度内に設置し、検証を開始する予定です。



小水力発電機

YKKグループ 夏期ピーク電力削減実績報告

YKKグループでは2011年夏期の電力需要抑制対策として、東北・東京電力管内で20%、その他の電力会社管内で15%のピーク時消費電力の削減を目指し、操業時間シフト、省エネ活動の徹底などの節電対策に取り組みました。

その結果、東北・東京電力管内では30.8%、その他の電力会社管内では16.4%の削減を達成しました。また、YKK APの事務所系電気使用総量は、全国でエコ内窓

「プラマードU」を109カ所設置した効果もあり、東北・東京電力管内で41%、その他の電力会社管内で31%削減しました。

今後も全拠点で省エネ活動を継続し、モノづくりの会社として高効率の生産体制や省エネ技術、設備開発などの技術力を生かし、エネルギー効率を徹底的に追求していきます。

YKKグループ 2011年夏期節電削減目標と結果

| 電力エリア | 削減目標 | ピーク時消費電力 | | |
|------------------------------|------|----------|-------------|-------------|
| | | 削減効果 | 大口需要 拠点数 | 小口需要 拠点数 |
| 東北・東京 | 20% | 30.8% | 6 | 105 |
| その他：北海道・北陸・中部・関西・中国・四国・九州・沖縄 | 15% | 16.4% | 14 | 152 |

大口需要：契約電力500kW以上 小口需要：契約電力500kW未満

生物多様性：理解促進のための活動を世界で展開

YKKグループでは世界中の拠点で植樹を行うYKK Group Tree Planting Dayや黒部川扇状地での生態系の再現・保全活動などの生物多様性保全活動に取り組んでいます。



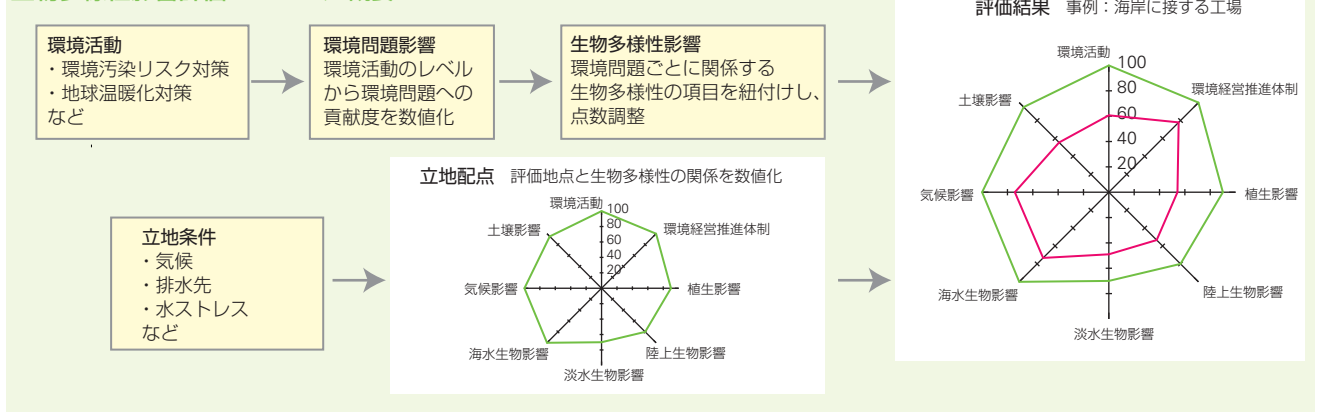
生物多様性影響評価

私たちはグローバルな生物多様性保全活動の第一歩として、生物多様性があまり知られていない国/地域においても事業活動と生物多様性の関係に気づいてもらうため、生物多様性影響評価マニュアルを作成しています。

気候や立地条件等から評価地点と生態系の関係を点数

化し、さらに土地の利用方法や環境負荷等からその生態系への影響を点数化します。総合的な環境活動や推進体制の評価も行いました。さらに理解を促進すべく、2012年度には「生物多様性ガイドブック(仮称)」を作成し、世界中の拠点で生物多様性保全活動に取り組む予定です。

生物多様性影響評価マニュアル概要



黒部事業所の生態系

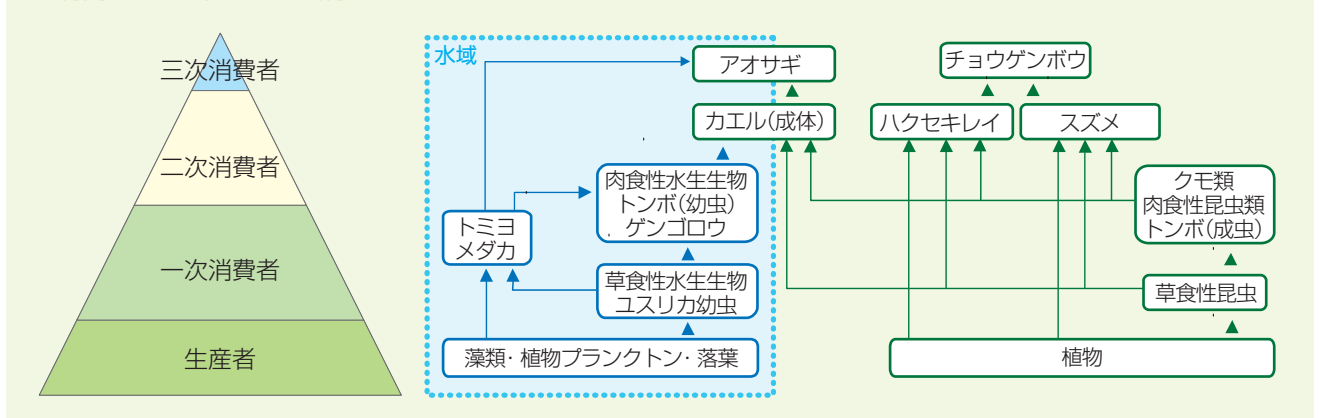
清流・黒部川の脇にある黒部事業所では、黒部川扇状地の生態系を保全するため2008年に森と湧水池を造りました。2011年度にはこれらの生態系を確認するため、生き物調査(鳥類、昆虫類、魚類、底生生物)を実施し、9種の希少生物を含む107科237種の生物を確認しました。陸ではチョウゲンボウなどの猛禽類を頂点とする生態系が、水辺ではアオサギなどの水鳥を頂点とする生態系が形成されていました。今後も生き物調査を実施し、森の成長を見守り続けます。

黒部事業所内で見られる主な希少種

| 種名 | 環境省レッドリスト | 富山県RDB |
|--------|-----------|--------|
| ミサゴ | 準絶滅危惧種 | 希少種 |
| ハヤブサ | 絶滅危惧Ⅱ種 | 危急種 |
| カワセミ | — | 希少種 |
| ミヤマアカネ | — | 希少種 |
| メダカ | 絶滅危惧Ⅱ種 | 危急種 |
| ドジョウ | — | 希少種 |
| トミヨ | — | 危急種 |
| モノアイガイ | 準絶滅危惧種 | 危急種 |
| マルタニシ | 準絶滅危惧種 | 絶滅危惧種 |

RDB: レッドデータブック

生き物調査より想像される食物連鎖



資産除去債務：適正管理と処理の推進

YKKグループではフロン類、アスベスト、土壌汚染およびPCBを環境債務として取り扱い、適正管理と処理を行っています。



フロン対策

フロン類を含有する機器には遵守すべき法律と管理者等を明示するとともに、台帳による管理を行っています。

推定処理費用：約1億円



アスベスト対策

アスベストは確認され次第、除去を行っています。が、除去工事が困難なことにより8地点においては除去ができない状況となっています。これらの地点では固定化または囲い込みの処置を行うとともに、定期的な大気中の飛散量を確認し、人体への健康被害を生じないよう対策を講じています。

推定処理費用：約2.8億円



土壌汚染

国内所有地全272拠点において自主的に土壌調査を行った結果、環境汚染を引き起こすなど、直ちに問題となる所有地はないことが確認されました。このうち37拠点は汚染リスクの可能性があるため、機会を捉えて再確認することとしています。

現時点での調査、対策費：約2.6億円



PCB対策

YKK AP四国事業所にて保管中の高濃度PCB（ポリ塩化ビフェニル）含有機器は2011年度にすべて処理を行いました。これにより、YKKグループの高濃度PCB含有機器保有台数は全国4拠点において124台となりました（2012年4月末現在）。

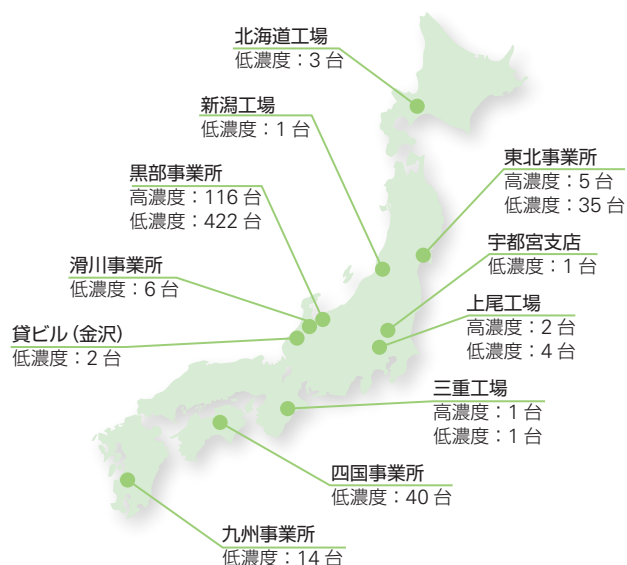
一方、低濃度PCB含有機器は使用中のものを含めると全国で529台保有しています。これらは適正な保管を維持しながら、順次処理を検討しています。

現在までの処理費用：約2.2億円

残りの推定処理費用：約1.5億円

※高濃度PCB含有機器処理費用のみ

YKKグループ PCB含有機器保有状況（2012年4月末現在）



黒部事業所低濃度PCB保管庫

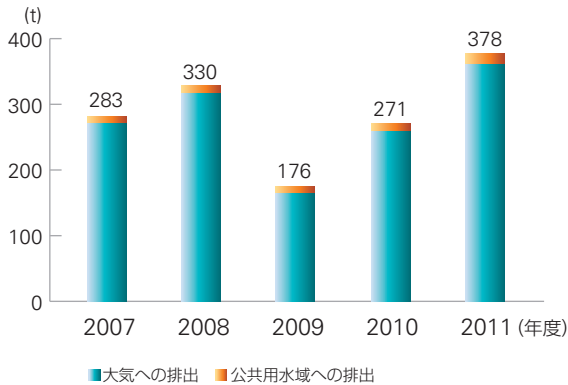
海外拠点の環境債務

YKKグループでは海外拠点においても、各国の法律に則った環境債務の管理・処分を行っています。アスベストは保有が確認された25拠点のうち4拠点で処理が完了、土壌汚染は10拠点中3拠点で処理が完了、PCBは14拠点中3拠点で処理を完了しています。処理が終わっていない拠点については、各国の状況を考慮しながら処理を進めています。

化学物質管理・資源循環：安全性と環境に配慮

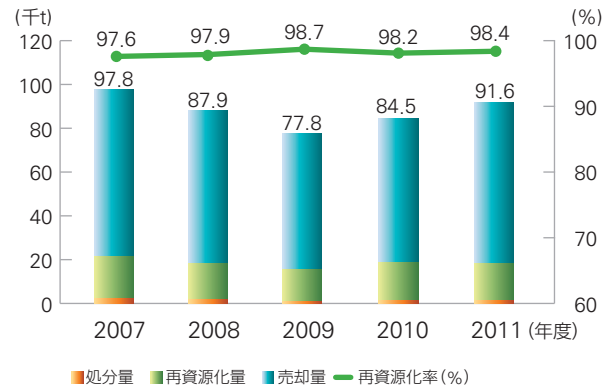
化学物質の適切な管理・把握による製造と商品の安全性の維持と、廃棄物総排出量の削減による環境負荷の最小化に努めています。

■ PRTR 対象物質排出量の推移
(ダイオキシンを除く YKKグループ国内主要生産拠点)



※排出量増加要因
2010年度：対象物質が354種から462種に増えたことと生産増による
2011年度：特殊撥水加工したファスナーの生産増による

■ 廃棄物排出量、再資源化率の推移 (YKKグループ国内全拠点)



化学物質管理：工機技術本部の取り組み

工機技術本部ではEUにおける化学品規則 (REACH規則) に指定されている、高懸念物質 (SVHC) の使用についてデータベースによる管理を開始しました。生体に深刻な影響を与える可能性のあるSVHC含有物質の年間使用量を集計し、EU地域に所在するファスニング事業グループの子会社に報告しています。

2011年9月には工機技術本部 分析・解析センター分析室が、米国の消費者製品安全性改善法 (CPSIA) によって規制される子ども向け製品の鉛含有量を分析できる試験機関として、米国消費者製品安全委員会 (CPSC) より日本で初めてファイヤーウォール試験所 (企業内試験所) の認定を受けました。

2011年3月には、公益財団法人日本適合性認定協会 (JAB) から銅合金、亜鉛合金、樹脂および薄膜の微量な鉛含有量の分析業務で第三者試験所として認定されており、これら国際的機関からの認定で、工機の分析・解析センターが持つ高い信頼性が公的に認められました。

REACH: Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemical substances
SVHC: Substance of Very High Concern
CPSIA: Consumer Products Safety Improvement Act
CPSC: Consumer Product Safety Commission
JAB: Japan Accreditation Board

YKKポルトガル社：廃棄物削減活動

YKKポルトガル社では、ストッププリンティングプロジェクトを実施し、事務処理で使用されるOA用紙の削減を進めています。用紙管理専用ソフトを導入し、受注書類などをすべて管理。2011年7月からの5カ月で、328キロの用紙 (71,200枚) の使用を削減しました。

YKK APインドネシア社：污泥対策

YKK APインドネシア社では、鑄造溶解炉の廃熱を利用し、污泥 (スラッジ) を乾燥させるスラッジドライヤーを導入しました。この乾燥処理により、污泥の含水率は10%以下となり、産業廃棄物の排出量削減となりました。



スラッジドライヤー

■YKK精神・経営理念

YKK精神「善の巡環」

他人の利益を囚らずして自らの繁栄はない

企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。YKKの創業者吉田忠雄は、事業をすすめるにあたり、その点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造すること

によって、事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり社会貢献できるという考え方です。このような考え方を吉田忠雄は『善の巡環』と称し、常に事業活動の基本としてまいりました。私達はこの考え方を受け継ぎ、YKK精神としています。

経営理念「更なるCORPORATE VALUEを求めて」



YKKは、更なるCORPORATE VALUE（企業価値）を求めて、7つの分野に新たなQUALITY（質）を追求します。

■コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

YKKグループは、その企業活動の中で、「他人の利益を囚らずして自らの繁栄はない」という『善の巡環』の精神を基本としております。この精神のもと、経営の使命・方向・主張を表現する経営理念「更なるCORPORATE VALUE（企業価値）を求めて」において、一貫して公正であることをあらゆる経営活動の基盤としております。当社グループは、こうした考えに沿って、より一層の企業価値の向上を図ることを目的としたコーポレート・ガバナンス体制の充実に取り組んでおります。当社のコーポレート・ガバナンスは、経営方針などの重要事項に関する意思決定機関および監督機関としての取締役会、ならびに、監査機関としての監査役会という機関制度を基本として、執行役員制度により、事業・業務執行を推進する体制を基本的な考え方としております。

■コンプライアンス

YKKグループでは、世界の国／地域において、一貫して「公正」であることを経営活動の基盤としてきました。YKKグループが真の国際企業となるため、2009年3月に、

「YKKグループ行動指針（YKK GROUP CODE OF BUSINESS CONDUCT）」を制定しました。これにより、世界中のYKKグループの全社員が共通の行動指針を持つことになりました。

コンプライアンス体制としては、コンプライアンス担当取締役を任命し、YKKグループのコンプライアンス体制の整備を図っています。コンプライアンス担当取締役は、コンプライアンス体制の整備・遵守の状況等につき、取締役・監査役に報告を行います。また、取締役・執行役員は、弁護士等によるコンプライアンス研修を定期的に受講し、職務遂行において法令を遵守するべき旨の誓約書を会社に提出しています。

コンプライアンス推進活動としては、コンプライアンス担当執行役員のもと、コンプライアンス推進グループを設置し、従業員に対する定期的な研修会の実施による意識改革への取り組み、報告および相談体制の整備、懲戒委員会の設置および運営、モニタリング機能の整備を行っています。また、法令違反、社内規則違反等の発生の抑止と通報者の保護を目的として、YKKグループ内部通報制度を運用しています。



YKKグループの経営体制は、中核となるファスニング事業と建材事業、そして両事業の一貫生産を支える工機によるグローバル事業経営と、世界6極による地域経営を基本としています。

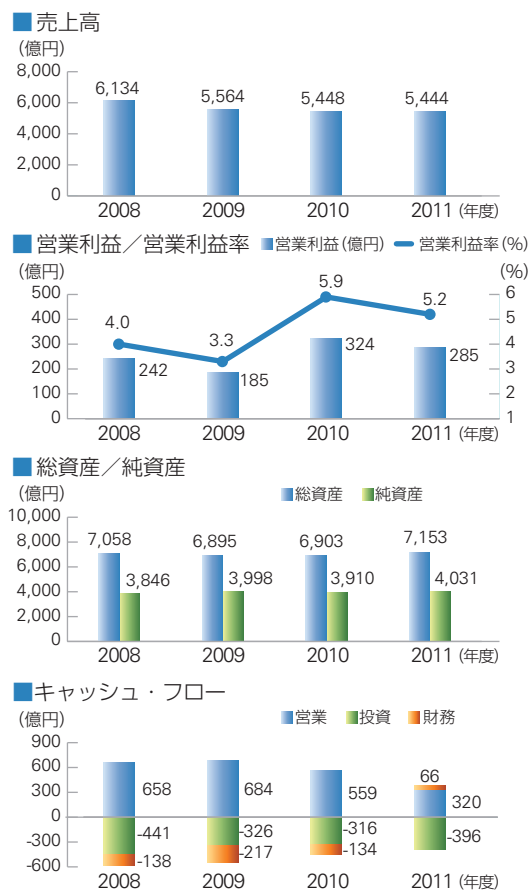
【YKK株式会社】

創 業 1934(昭和9)年1月1日
資 本 金 119億9,240万500円(2012年3月末現在)
代表取締役会長CEO 吉田 忠裕
代表取締役社長 猿丸 雅之
本 社 〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1
※2011年9月より仮移転(現住所)
〒101-8642 東京都千代田区外神田1-18-13
秋葉原ダイビル10F・11F
TEL 03-3864-2000
黒部事業所 〒938-8601 富山県黒部市吉田200
TEL 0765-54-8000

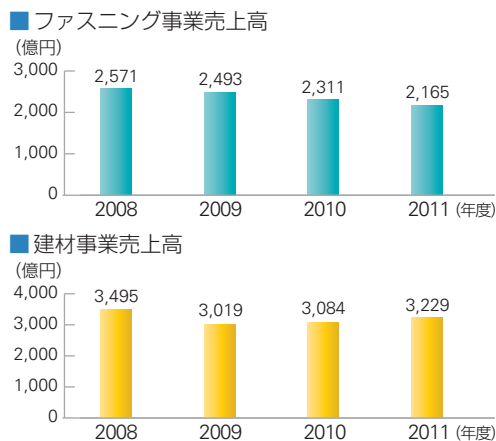
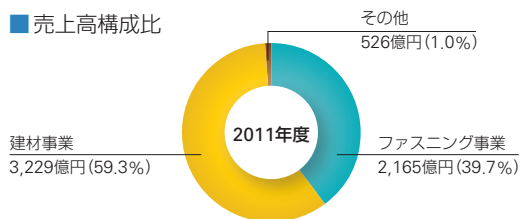
【YKKグループ】

事 業 内 容 ファスニング・建材・ファスニング加工機械
および建材加工機械などの製造・販売
グループ会社 世界71カ国/地域109社
日本国内21社 海外88社
主な子会社 YKK AP(株)、YKKファスニングプロダクツ販
売(株)、YKK不動産(株)、YKK U.S.A.社、YKKアル
ミニウム・オーストラリア社、YKKコーポレー
ション・オブ・アメリカ
連結従業員 39,000名(国内17,000名 海外22,000名)
(2011年12月末日現在)

2011年度連結主要財務情報



セグメント情報 (事業別)



YKK株式会社／YKK AP株式会社

〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1

URL <http://www.ykk.co.jp>

〈お問い合わせ先〉

YKK株式会社 環境グループ

〒938-8601 富山県黒部市吉田200

TEL: 0765(54)8161 FAX: 0765(54)8149

E-mail: kankyo@ykk.co.jp



未来が変わる。
日本が変える。
YKKグループはチャレンジ25
キャンペーンに参加しています。



この報告書は森林認証紙を使用して印刷しています。